

▼フレンズコーナー

“まち”と“地域”の衰退は、風景に現れる

一般社団法人シーニックバイウェイ支援センター 代表理事
 特定非営利活動法人日本風景街道コミュニティ 理事
 一般社団法人北海道開発技術センター 理事/地域政策研究 所長

原文宏



■なぜ、「風景・景観」なのか

16年目を迎えるシーニックバイウェイ北海道は、現在、指定ルート13（日本風景街道登録）、候補ルート3（指定に向けて準備活動を進めているルート）に拡大しており、400以上の参加団体が活動しています。

ここからは、私見です。シーニックバイウェイ北海道の活動の3本柱は「風景・景観」「観光」「地域づくり」ですが、基本は「風景・景観」だと考えています。「風景・景観」を守り、育てて、活用することが、結果として観光振興や地域づくりに繋がると確信しています。

なぜかという、風景や景観には、その地域の人々の暮らし、活動、気遣いが現れるからです。例えば、私が、見知らぬ外国の地を旅していて、落書きやごみが散乱している風景をみたら、治安が悪いのかな？と思いますし、その地域が楽しそうとも感じませんから、そこに滞在したいとも思わないでしょう。

また、北海道の美瑛や富良野地域は、農村景観が美しいということで、多くの観光客が訪れますし、移住者する人も少なくありません。この農村景観を創っているのは農業者ですが、おそらく農業者は美しい風景を創ろうと思って農業をしていないと思います。もし、農業者が離農して、後継者もいなくなったら、”パッチワークの丘”といわれる美しい農村景観が、荒地のパッチワークになってしまい、観光地や移住先としての魅力も失われるでしょう。景観を守ることは、農業を守ることとイコールなのです。

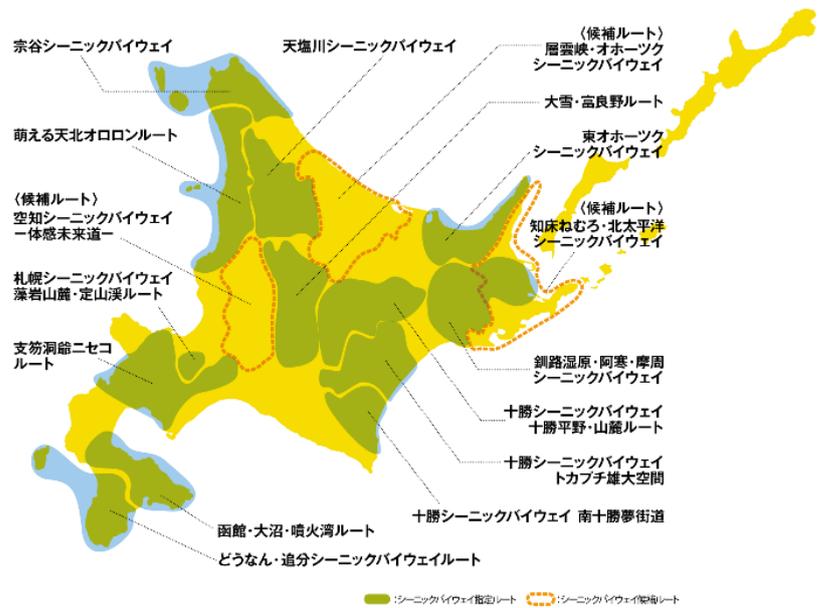
ですから、風景・景観を守ること、育てること、活かすことが、観光や地域づくりにとって、とても重要だと考えています。

■最近、私が、特に関心をもっている活動

全道で展開されるシーニックバイウェイ北海道の活動は、多種、多様です。全てを紹介することはできませんので、私が最近、特に関心を持っている活動をいくつか紹介したいと思います。各ルートの特徴や活動報告は、以下のホームページを参照ください。

【シーニックバイウェイ北海道推進協議会】

https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/kn/dou_kei/ud49g7000000nOut.html

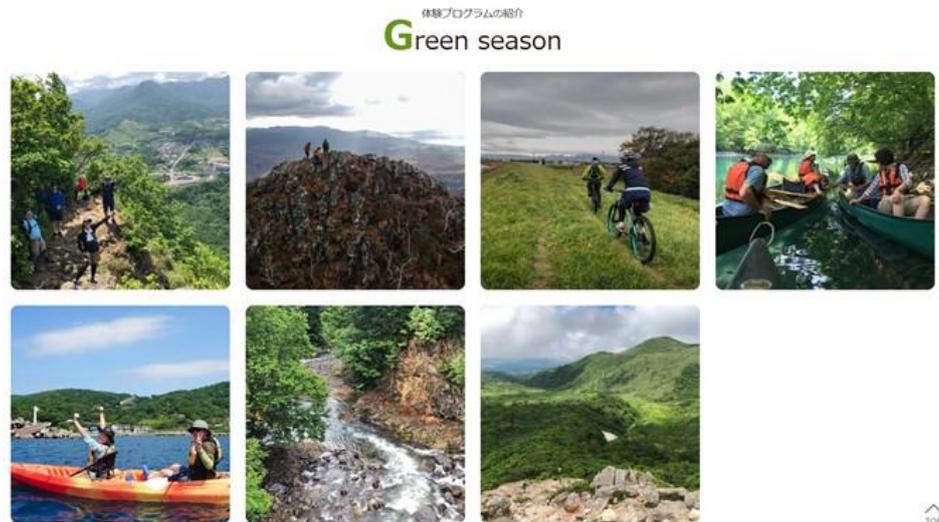


● シーニックバイウェイ北海道の指定ルートと候補ルートのエリア（令和3年8月現在）

1) アドベンチャートラベル

世界観光機関（UNWTO：World Tourism Organization）の定義では、アドベンチャートラベル（Adventure Travel：AT）は、「自然との触れ合い」「異文化交流」「身体活動」の3要素のうち、少なくとも2つを含む旅行形態と定義されており、将来、大きなマーケットとなることが予想されています。

（一社）シーニックバイウェイ支援センターでは、札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山溪ルートや支笏洞爺二セコルート等と連携して、札幌市と周辺地域をフィールドに、魅力ある様々なアクティビティと歴史・文化、芸術、食などを組み合わせた、札幌を起点とした「日帰り」もしくは「1泊2日」程度の期間で楽しめる「1 Day アドベンチャー・プログラム」の開発を行っているほか、道北や道東のシーニックバイウェイでも、アドベンチャートラベルの取り組みが活発化しており、シーニックバイウェイと親和性が高く、新たな北海道の魅力となる観光プログラムと考えています。



●札幌アドベンチャーライフ HP 【Sapporo Adventure Life】
<http://sapporo-adventure.jp/index.html>

2) 学校シーニックバイウェイ

十勝シーニックバイウェイ「南十勝夢街道」では、継続的な地域活動を行うためには、地域づくり人材の育成が重要という課題認識のもと、地域の小学校と連携して授業の中で、地域活動を生徒とともに学習する取り組みを平成22年から継続しています。

いわゆる「出前授業」として、生徒にシーニックバイウェイ活動の思いを伝え、生徒と一緒に地域のおすすめ情報を話し合い、その情報をまとめてマップを作成したり、モニターツアーを行ったりしています。

ただ、学校現場では、英語やプログラミング教育などの新たな科目が増えているほか、新型コロナウイルス感染拡大による休校等により、授業時間数に余裕がなくなってきており、出前授業の実施が厳しい状況になっています。

そこで、現在、「NPO法人ほっかいどう学推進フォーラム」等と連携して、学習指導要領に沿う形で、社会科や総合学習で学校シーニックバイウェイを展開することを検討しており、是非、実現したいと考えています。



●出前授業の様子（幕別町立忠類小学校）

3) シーニックの森（カーボン・オフセット）

シーニックの森（事務局：シーニックバイウェイ支援センター）は、シーニックバイウェイ北海道が推進するドライブ観光と、それに伴うCO₂排出増という問題を、観光客も参加してオフセットすることで解決を目指したものです。

現在、道内4箇所に「シーニックの森」を設置していますが、釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイ

ウェイルートが管理運営する「そらの森（弟子屈町）」と函館・大沼・噴火湾ルートが管理運営する「きじひき森林公園の森（北斗市）」が植樹活動の中心です。

平成 19 年のスタート当時は地球温暖化問題への関心も高く、オフセット取引等で民間企業の参加も期待されましたが、その後は社会全体の関心も低下し、シーニックの森も“緑化”を目的とした植樹が主体となっていました。

しかし昨年（令和 2 年）、わが国政府が 2050 年カーボンニュートラルを宣言したことで大きく状況が変わったと思っており、シーニックの森にも追い風と考えています。今後は、オフセット植樹だけでなく、木材の長期的な利活用も含めて、シーニックの森の仕組みを再考してみたいと思っています。



●第 5 回そらの森植樹祭の参加者による記念撮影

■シーニックバイウェイ「秀逸な道」

「秀逸な道」は、シーニックバイウェイ北海道の各ルートの中でも特に魅力的な景観等を有する道路区間です。選定された 12 区間、選定候補の 6 区間を対象として、観光資源としてさらに磨き上げ、その魅力を発信することでドライブ観光客等の誘客促進を目的としたプロジェクトです。

現在、ハッシュタグキャンペーンを実施しています。インスタグラムのシーニックバイウェイ公式アカウントをフォローした上で「#秀逸な道」をつけて写真を投稿すると秀逸な道ウェブサイトに表示されます。是非、北海道で「秀逸な道」をドライブして自分だけの秀逸な道を投稿してみてください。

【秀逸な道ハッシュタグキャンペーン】

<https://sbw-roads.sakura.ne.jp/share/>



●インスタグラムにより「秀逸な道」ハッシュタグキャンペーン

●私たちは、土木学会インフラパートナー団体の仲間です。

